

最新キッチン スタイル

ABC
HOUSING

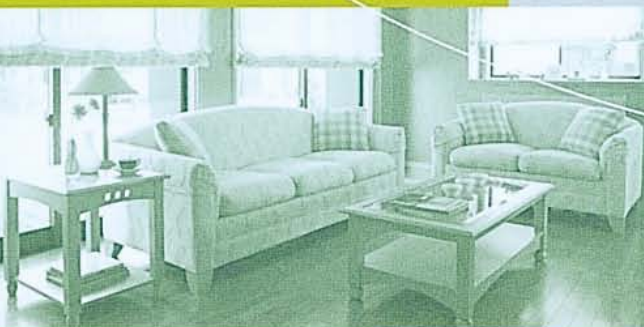
みんなが行き交うキッチン^{スペース}空間

もっ
と
オープンに！



Dining

Kitchen



Living

キッチンが変わると暮らしも変わる。
キッチンからはじまる
新しい暮らしを考えませんか。

システムキッチンが登場して30年余り。キッチンのデザインや機能を美しく進化させ、キッチンを家族とのコミュニケーションや趣味を楽しむスペースとして、より積極的に活用しようという考えへと発展してきました。

そして、キッチンはその新しい役割にふさわしく、いまも進化をつづけています。

キッチンのスタイルは、暮らしのスタイルに大きく影響します。キッチンを考えることは、暮らしを考えることにほかならないのかも知れません。

ここでは、そんなキッチンの最近の傾向をご紹介します、新しい住まいをお考えの皆さんの参考にしていただこうと思います。

index	キッチンの新傾向	3
	キッチンデザイン	5
	キッチンの収納	7
	フロアユニット	9
	LDKレイアウトプラン	11
	LDKチェックリスト	13

キッチンは、コミュニケーションスペース。
リビング・ダイニングへ向かって、ますますオープン化するキッチン。

★ キッチンを使っていた仕切りを取り払うと、こんなに開放的なスペースが生まれます。



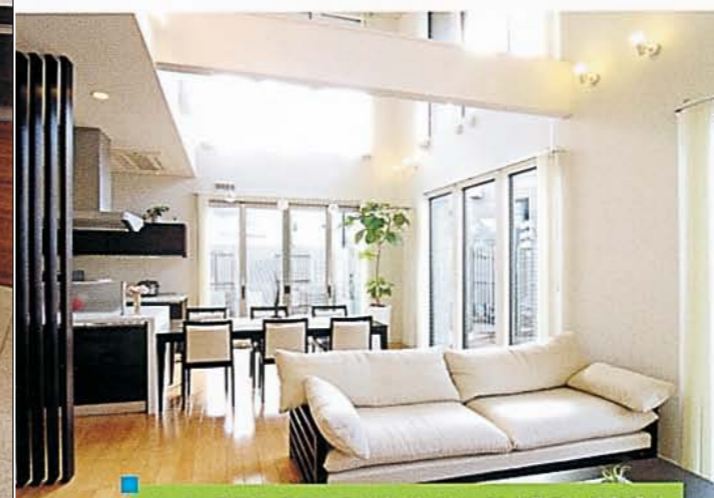
★ キッチンの2つ並んだ窓が、LDKの風景をいっそう魅力的にしています。



★ リビングとキッチンを同じテイストで仕上げた例。一体感が強調され、空間が広く感じられます。



★ リビングやダイニングの窓から明るい光をキッチンでも共有できます。オープンなつくりだからこそ生まれるメリットで、開放感も満点です。



★ キッチンデザインの工夫で、リビングからキッチンを見ても、違和感がありません。



★ ワンルーム感覚のLDK例。オープンなLDKは、ホームパーティにも最適。より豊かなお付き合いのある暮らしが実現でき、ますます家が好きになるかも知れませんね。

これまでもLDKはありました。が、どこかに、こちらはキッチン、
あちらにダイニングとリビングというような区切り感が残っていました。
それが、いま「広いリビングの一角にキッチンとダイニングがある」という
大胆な発想に基づいたLDKのカタチが登場してきています。
「作る」「食べる」「片付ける」「くつろぐ」が文字通りひとつのスペースで行われ、
キッチンはダイニングやリビングと同じ、家族みんなが行き交うスペースとなりました。



★ キッチンを区切らずにLDKを1室にするメリットには、コミュニケーションの活性化のほかにも、部屋全体を明るくしたり、限られたスペースを広く感じさせる効果があります。また、空気の流れも平均化され、捕集性能を高めたレンジフードにより、キッチンだけに湿気や熱気がこもることなく、キッチンでの作業はよりいっそう快適になります。

キッチン デザイン

リビング・ダイニングとのつながりが大切。
バリエーション豊かなデザインが心強い味方です。

オープンなスタイルのキッチンデザインは、キッチン単独で考えるのではなく、ダイニングやリビングなど住まい全体のインテリアイメージで考えることが大切です。それに応えるかのように、キッチン周りの設備のデザインや機能もますますバリエーション豊富に進化しています。LDKがちぐはぐにならないよう、選ぶ方もイメージをしっかり持っていたいですね。

モダンスタイル



ステンレスのレンジフードでシャープでインパクトあるLDKに。

シンプルで都会的な感覚のインテリアスタイルは、キッチンが本来持っている機能的な質感と相性が抜群。ステンレスのレンジフードや、シャープな印象の仕上げ材を選べば、いっそう洗練されたLDKが生まれるでしょう。



畳スペースのあるLDK

畳スペースがあるとほっとするのが日本人。和室として区切るのではなく、床座と椅子席をつなげたロングテーブルで、オープン感覚のまま「和」を取り入れた例。開かれたLDKはどんなスタイルでも可能です。



オープン感覚のダイニングキッチンと畳スペースが見事にマッチ。

ナチュラルスタイル



生活感を抑えながらも、暖かみのあるアトリエ風のLDK。

スローライフブームなどで、近ごろ人気の木の質感を生かしたナチュラルスタイルのインテリアにも、オープンなキッチンはぴったりです。ダイニングの壁材や家具などと合わせた素材やカラーでまとめるとしっとり落ち着いた雰囲気。アクセントとしてシャープな色や質感のもの組み合わせれば、おしゃれで個性的なナチュラルスタイルが楽しめます。



クラシックスタイル



高級感のある木目使いでダイニングとイメージを統一。



クラシックなインテリアスタイルの住まいでは、これまでキッチンを見せないタイプ(クローズドキッチン)が多かったのですが、キッチンボードの面材が豊富になり、高級感のある木目などを選ぶことで、壁面家具のような印象がつけられ、リビングやダイニングのインテリアのクラシックな雰囲気を損なうことなく、オープンなLDKを楽しむことができるようになりました。



これまでのキッチンと見た目を大きく変えるポイントは、ウォールユニット(吊戸棚)をつけないことです。レンジフードはウォールユニットの一部に組み込まれていて、金属部分は少ししか見えていなかったのですが、ウォールユニットがないとレンジフード全体が見えることになり、かなり感じが変わります。「それでは収納が減る」との心配は無用です。レンジ・シンクの付いたユニットを前に、壁面を収納にあてると、使いやすい高さの収納が増えて一挙両得なのです。

キッチンの 収納

すっきりとしたカウンタートップを 可能にするのは、たっぷりの収納です。

オープンキッチンを望まない方の理由のひとつは、キッチンがモノであふれ、いつもきちんと片付けるのがたいへんだからというもの。でも、キッチンがモノであふれるのは奥さまの責任ではなく、収納が不足しているのです。新しい住まいでは、キッチンにもたっぷりの収納力を持たせ、明るくにぎやかで、オープンなLDKライフをたっぷり楽しめるようにしませんか。



キッチンの収納はとて進化しています。開き戸・引き戸、背の高いもの・低いもの、中が見えるもの・見えないもの、大型扉や小さく分割した扉、電動式で動くものなど、各ハウスメーカーや設備機器メーカーからさまざまなタイプが登場しています。収納するものや使い方に合わせて、カタログなどで研究してみるのも楽しいですよ。



炊飯器やオーブントースターなどの調理器具にもきちんと収納場所を確保。こうしておけば、見えていてもうるさく感じません。とにかく、カウンタートップにモノを出しっぱなしにしないということが、美しいキッチンを保つポイントです。



キッチンから続く、おしゃれで収納力たっぷりのローボード。

キッチンから続いているとは思えないほど、収納をかねたおしゃれなローボード。くつろいだ雰囲気の魅力です。

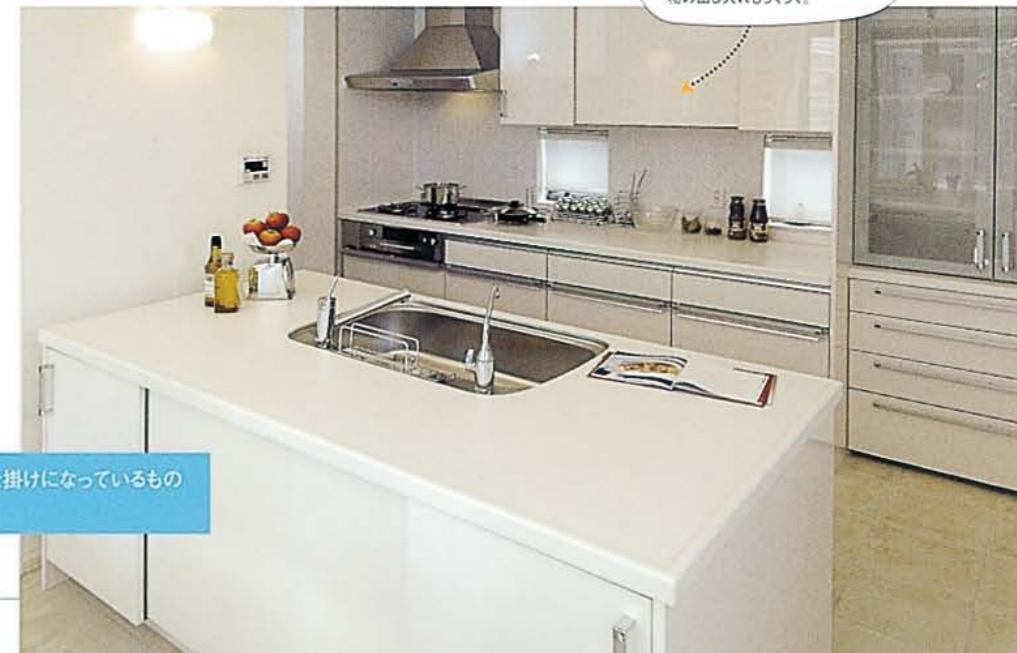


インバウトのある楽しい色づかいのキッチン。たっぷりの収納力でカウンタートップはいつもすっきり。これなら、子供たちが走り回っても安心です。



ダイニング側にも収納スペースがあると便利。

フロアユニットのダイニング側にも収納が付いているものがあります。



内部の棚が見降るタイプなら物の出し入れもらくらく。

ウォールユニットの内部の棚が降りてくる仕掛けになっているものもあり、高さを有効に使えます。

フロア ユニット

キッチンとダイニング・リビングのつなぎ方。 多様な対面型・カウンター型フロアユニット。

II型やL型、アイランド型といったキッチン自体のタイプ分類にとどまらず、ダイニングやリビングとのかかわりへと関心が広がってきています。このキッチンとダイニング、リビングとの中間でつなぎの役割を担うのが、様々なタイプの対面型やカウンター型のフロアユニット。シンクやレンジを備えたもの、備えていないもの、サイドを壁面につけて設置するもの、アイランド風に設置するものなどいろいろなタイプのフロアユニットによって、ライフスタイルに応じた様々なキッチン&ダイニング・リビングの配置のバリエーションをつくることができます。

シンク + レンジ

キッチン部分を下り天井にしてダクト型レンジフードを設置。



アイランドキッチンに不可欠のダクト型レンジフード。天井裏にスペースが取れない場合にも、一部を下がり天井にして問題解決。

シンク + レンジ



シンクやレンジを備えたフロアユニット。立ち上がりの腰壁もレンジ用の袖壁も作らないオープンなスタイル。腰の部分と同素材仕上げで、機器を装備しても家具っぽく、「置いている」感じになるのが特徴。これも食事や後片付けに気軽に参加してもらえそうなスタイルです。

シンク + ダイニング
テーブル



シンク



小型シンクを備えたフロアユニット。お料理、後片付けもみんなでお手伝い。

アイランド風に置いたフロアユニットは、小型シンクを備えた調理配膳スペース。お子さまのお手伝いなど複数でのお料理や後片付けもスムーズに行えます。

シンク + ダイニング
テーブル



カウンタートップを広げて食卓にした例。この場合、椅子はカウンター用の高めのものを組み合わせます。

カウンター



オープンLDKでも、ゆっくりしたい夜など、食事やくつろぎタイムなどを分けたいときがありますね。そんなときは照明を工夫。テーブルの上をスポット的に照らせば、家族の気持ちもそこに集中。照明が同仕切りの代わりになります。

カウンター



収納が不足しがちなコンパクトなキッチンでは、下部にたっぷり収納できるカウンター型フロアユニットが有効です。

腰壁付き
フロアユニット



低くても腰壁があることで独立度が高くなります。

立ち上がりの腰壁を設置したスタイル。キッチンの独立度が少し高いタイプです。

クラシックインテリアの場合の キッチン2例

上はオープンタイプのU型。
下は独立性の少し高いタイプ。



腰壁付だとなぜ独立度が高まるのでしょうか。腰壁の高さは作業面より10cmほどあげるだけですが、壁面と同じクロス仕上げにするので、低くても「壁」と感じ、キッチンスペースを区切る感じが高まります。対照的に、フラットタイプの対面ユニットは家具的な仕上げで、軽快な印象を見せます。このページで紹介しきれないさまざまな商品がありますが、今後ますますバリエーションは増えていくと思われます。新しい動向に注目したいアイテムです。

LDK レイアウト プラン

なにを重視するかで決まります。

ライフスタイル別 LDKプランバリエーション

LDKのオープン化傾向が進んでいるといっても、もちろん、そのレベルはさまざま。各ご家庭のライフスタイルや好みによって選ぶのがベストです。ここではオープン度に応じて3つのタイプをご紹介します。

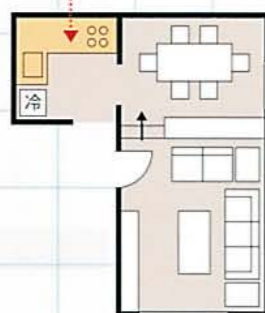
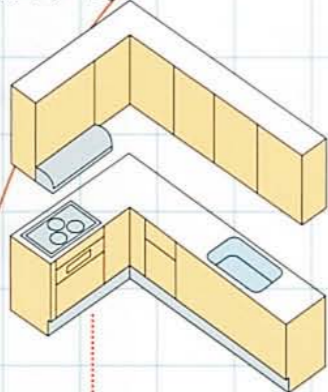
低い ← キッチンのオープン度 → 高い

伝統派

キッチン機能性を重視し、ダイニングやリビングはくつろぎ重視で、各スペースはできるだけ分けておきたいと考えるタイプ。

壁付型

シンクとレンジの動線が短い。作業効率のよいパターン。



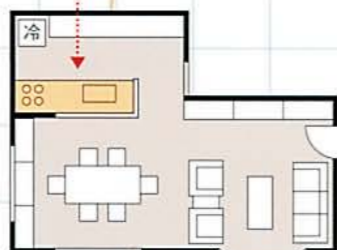
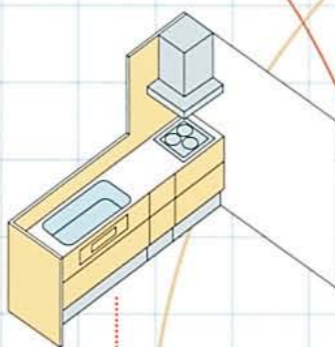
オープン度:低

壁付型

伝統派のためのクローズドキッチン。ダイニングとリビングは少し段差を設けることで、一続きながらもスペースの切り替え感をつくり、それぞれのスペースの独立性を高めています。

腰壁付対面型

手元が隠せる対面型。少しくらいなら散らかっていても見えません。腰壁は部屋の壁面と同じクロス張り仕上げ。



オープン度:低

腰壁付対面型

シンクの上にウォールユニット(吊り戸棚)を設置してハッチ型にすると、キッチンの独立性を高めることができます。収納も増えて、お料理好き向けのキッチンです。

中間派

低い ← キッチンのオープン度 → 高い

オープン度:中

腰壁付対面型

壁側に冷蔵庫と収納を配し、シンクとレンジを備えたフロアユニットを使用した対面型のII型レイアウト。コンパクトなプランの場合には、シンクの上はオープンにした方が広く感じます。



オープン度:中

壁付型

キッチンとダイニングの間にカウンターを置いたL型レイアウト例。カウンターの高さによって、キッチンのオープン度が変わります。

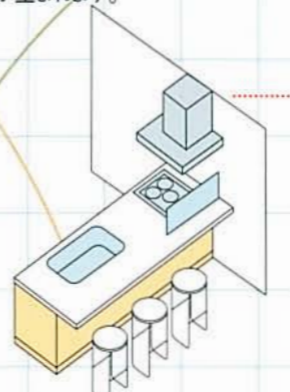
キッチンからは家族の顔が見えるけれど、ダイニングやリビングからキッチンの中が全部見えるのは抵抗がある、という方向け。

開放派

もっともオープン度の高い、コミュニケーション重視のLDKプランで、スペースにゆとりがある場合も、コンパクトにおさめたい場合にも有効です。

フラットタイプ対面型

ダイニング側というオープンなつながりが生まれます。



オープン度:高

フラットタイプ対面型

フロアユニットに続けてダイニングテーブルを配した例。DKが一体化した、最新のスタイルです。

オープン度:中

壁付型

左のプランと同じII型レイアウトですが、カウンターをダイニング側に配した例。キッチンへの立ち入りがよりオープンになりそうです。



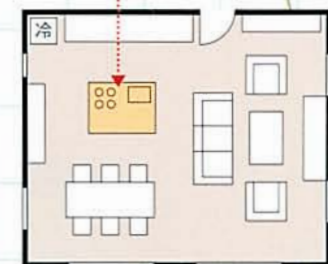
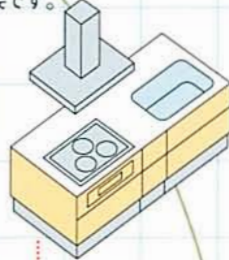
オープン度:中

腰壁付対面型

レンジ部分を壁付け、シンク部分を腰壁付きの対面型にしたL型レイアウト。フロアユニットに対し、冷蔵庫や収納を直角に配すると、キッチンに入りやすくなり、奥壁面にも窓がつくれ開放感が得られます。

アイランド型

壁面から独立し、自由に周りを移動できます。アイランドにレンジを配した場合は、排気のためのダクトが必要です。



オープン度:高

アイランド型

大人数のパーティも可能なワンルーム感覚のLDK。リビングを軽く区切りたい場合は、ソファの後ろにカウンターや柱をプラスすることも考えられます。



オープン度:高

フラットタイプ対面型

コンパクトなスペースながら収納力の大きい配置。食を大切にしたい子育てファミリーにぴったりです。

**LDK
チェック
リスト**

さあ、次は、
モデルホームで実際に体感・チェックしてください。

いろんなモデルホームのいろんなLDKで、あなたの理想のスタイルを見つけてください。

キッチンやLDKについて、新しい傾向のものを中心にご紹介してきましたが、興味を感じられたものはありましたでしょうか。キッチンとダイニング、リビングとの関係のような複合的な組み合わせは、実際に見てみないとなかなか実感がわかないことも多いと思います。そうした意味でも、今回はぜひともモデルホームで体感していただきたいテーマです。

美しいモデルホームに見とれてうっかり大事などころを見落とさないよう、今回のテーマにそって、かいつまんだチェックポイントをリストに上げてみました。

まず最初にLDK全体の構成を見てください。キッチン・ダイニング・リビング、それぞれのスペースのつながりについてですが、

- 3つのスペースがともに独立性の高いものは「L+D+K」、
- キッチンとダイニングが一緒にリビングが少し別スペースは「L+DK」、
- キッチンだけが少し区切られていてリビングとダイニングは一緒に続きの場合は「LD+K」、
- 3つのスペースが一体のものは「LDK」。

独立性が高いと見るか、同じスペースを共有していると感じるかは、あなたの感じ方でよいです。いろいろな組み合わせがあり条件もさまざま、この場合はこのタイプとははっきり線引きできないこともありますが、大事なはその場に立った人がどう感じるか、です。

キッチンに立ってみて、リビングに座ってみて、あなたの実感で分類してください。

右はキッチンを中心に、それぞれのエリアでのチェックポイントをあげています。このチェックリストは、モデルホームのご見学時にご活用ください。

LDKチェックリスト:モデルホーム見学の際、参考にしてください。

		モデルホーム名 ()				モデルホーム名 ()				モデルホーム名 ()			
LDKの構成タイプ		L+D+K	L+DK	LD+K	LDK	L+D+K	L+DK	LD+K	LDK	L+D+K	L+DK	LD+K	LDK
K キッチン	キッチンのオープン度	クローズド・セミオープン・オープン				クローズド・セミオープン・オープン				クローズド・セミオープン・オープン			
	キッチンのレイアウト	I型・L型・U型・II型・アイランド型・その他				I型・L型・U型・II型・アイランド型・その他				I型・L型・U型・II型・アイランド型・その他			
	キッチンのタイプ	壁付け型・腰壁付対面型・フラット対面型・アイランド型				壁付け型・腰壁付対面型・フラット対面型・アイランド型				壁付け型・腰壁付対面型・フラット対面型・アイランド型			
	キッチンの大きさ	狭い・適当・広い				狭い・適当・広い				狭い・適当・広い			
	収納の量	少ない・適当・多い				少ない・適当・多い				少ない・適当・多い			
	収納の使い勝手	よい・ふつう・悪い				よい・ふつう・悪い				よい・ふつう・悪い			
	収納扉面材	木目・単色ホワイト・単色カラー()・ステンレス・その他				木目・単色ホワイト・単色カラー()・ステンレス・その他				木目・単色ホワイト・単色カラー()・ステンレス・その他			
	カウンタートップ	ステンレス・人造大理石・その他()				ステンレス・人造大理石・その他()				ステンレス・人造大理石・その他()			
	採光の工夫	よい・ふつう・悪い				よい・ふつう・悪い				よい・ふつう・悪い			
	勝手口	ある・ない				ある・ない				ある・ない			
その他の特徴・気づいた点													
D ダイニング	広さ	狭い・適当・広い				狭い・適当・広い				狭い・適当・広い			
	席の種類	カウンター席のみ・テーブル席のみ・カウンターとテーブル				カウンター席のみ・テーブル席のみ・カウンターとテーブル				カウンター席のみ・テーブル席のみ・カウンターとテーブル			
	まとまり	落ち着く・ふつう・落ち着かない				落ち着く・ふつう・落ち着かない				落ち着く・ふつう・落ち着かない			
	採光の工夫	よい・ふつう・悪い				よい・ふつう・悪い				よい・ふつう・悪い			
	その他の特徴・気づいた点												
R リビング	広さ	狭い・適当・広い				狭い・適当・広い				狭い・適当・広い			
	まとまり	落ち着く・ふつう・落ち着かない				落ち着く・ふつう・落ち着かない				落ち着く・ふつう・落ち着かない			
	採光の工夫	よい・ふつう・悪い				よい・ふつう・悪い				よい・ふつう・悪い			
	その他の特徴・気づいた点												

